

参加者増で盛り上がった合同学習会



各班采访记③中級班

会話と音読で 実力アップ



【写真は中級班の授業風景】

昨年12月12日、中級班の授業を見せてもらいにいきました。当日の参加者は12人。授業は、まず参加者のリレー会話で始まりました。

各人が相手を選び（この日は座っている順番）、「朝食は、ご飯でしたか？それともパンでしたか？」などと質問。それに答えて、今度は、その人がまた次の人に質問という形。老師が間違いを正したり、わからない単語を示したりしながら、1時間で全員のリレー会話が終わりました。

2時間目は、教科書。ある参加者の話では、一人ひとりがしっかり音読することで、会話練習と合わせて、最近みなさんの力がついてきたそうです。

昨年11月14日、枚方市民会館で当会の合同学習会が行われ、これまでにない52人の参加でおおいに盛り上がりました。今年度に入って大幅な会員増があったこと、日程をこれまでの日曜開催から上級Ⅱ班以外の各班の学習日に合わせて水曜日に変えたことで参加しやすくなったことによると思われます。

学習会では、西川会長のあいさつに続き、「ゲームで学ぶ中国語」の「日中翻訳ゲーム」を行いました。これは、出題されたに日本語の中国語訳の文字がバラバラに示されているのを正しく組み立てるといったもの。班をばらして作られた混成9チームで正解を競いあいました。

ムで正解を競いあいました。

易しい文もありましたが、難しい文章の正解が示されると、「あ〜」というため息や「やったァ」という歓声が上がりました。

その後の懇親会では、班を超えた交流が拓がると同時に入門班の「量詞歌」、初級班の「あの素晴らしい愛をもう一度」、中級班の「花心」（写真右）などの歌や上級Ⅰ班の「覚えよう中国の各省」、上級Ⅱ班の「王将語は中国語か」といったクイズで、会場はおおいに沸きました。

最後に今西事務局長の三本締めで楽しいひと時を終えました。

西川会長の 中国語余話⑪

今回は、発音の基礎の基礎、短母音‘u’についての注意です。

以前に中国語スピーチコンテストの審査委員をした時、ある中国人の先生が、「日本人の中国語の短母音のうち、私は‘u’が一番気になります」とおっしゃいました。きっと日本語の「ウ」と同じような音になっているのでしょう。

一般には、音は日本語の「ウ」で唇を前に突き出せばよい、と考えられているのがその原因だと思います。

正しい音は、中国語の‘o’（つまり口の中を開けて・ほっぺをへこませて）から、唇を突き出す‘u’にしなければなりません。日本語の「ウ」は、「イ」のように口を閉じて発音しますから、中国語の‘o’ではなくなるのでしょう。